

第7回検討会における主な御意見と対応（案）

1. 温泉利用施設のほう素、ふっ素の低減方策に関する調査結果

	ご意見	対応案
1	A温泉について、温泉 No.1、No.2 の濃度の変化が大きい理由は何か。源泉濃度は大きく変化することは考えにくい。調査時の現地状況を把握しておく必要があるのではないか。	過去の採水時の排水状況が確認できていないため、原因が明らかでない。浴場オーバーフロー水と洗い場排水が混合した排水であるため、使用人数の違いにより変動することも一因であると推察される。（資料Ⅱ-4 に記載）。
2	揚水量の規模の分布はわかるか。	日帰り温泉のアンケート調査結果から資料Ⅱ-6に記載した。

2. 自然湧出、日帰り温泉の実態調査結果（中間報告）について

	ご意見	対策案
1	温泉開発とは、本来は外へ出して捨ててはいけないものを汲み上げて捨てている行為である。せつかく自然が埋めてくれているものをもう一回出して分散させている。温泉を利用する旅館や日帰り温泉施設の方に啓蒙していくことが重要である。	温泉を利用することによる環境への影響について、理解を深めていただけるように啓発活動も重要であると考えている。

3. 暫定排水基準について（考え方、基準値案）

	ご意見	対応案
1	<p>旅館業に対しては暫定基準値をもっと厳しくしようとしており、日帰り温泉に規制がかからないのは公平性から見ておかしい。日帰り温泉については、特定施設の対象として規制をかけるべきである。</p> <p>水道水を用いている施設は除外し、温泉法に基づく温泉水を利用する施設に限る。</p>	<p>日帰り温泉を特定施設として追加することについて検討する。今後、そのために必要な課題を整理していく。</p> <p>暫定排水基準の考え方を資料Ⅱ-7に示した。</p>
2	<p>福祉施設・病院、温泉スタンドは量も多くないので、日帰り温泉と一緒に規制対象とすることは難しいかもしれない。</p>	<p>福祉施設・病院、温泉スタンドなどの源泉取水量等の実態についてアンケート結果を用いて資料Ⅱ-6に示した。</p>